

2026年 1月～3月 活動報告

天塩町地域おこし協力隊 前川康生

地域おこし協力隊として着任から1年が経過し、2年目の活動を迎えることとなった。

1年目は、天塩町の歴史や文化を学び、町民の方々からお話を伺う機会に恵まれ、地域を深く知る期間となった。今年度は大きな活動や成果として目に見えるものが少なく、力不足を感じている面もある。

次年度は、企画展や体験講座の開催、学校との連携など、より多くの方に資料館へ足を運んでもらえるよう、これまで以上に取り組みを進めていく。地域の魅力を伝え、学びの場として親しまれる資料館づくりに努めていきたい。

1. 活動内容・業務進捗

1-1 資料館における次年度事業の準備

(1) 企画展 『天塩町旧役場庁舎と赤レンガ（仮）』

次年度の企画展の一つとして、標記テーマによる展示開催を検討している。旧役場庁舎は、天塩町を象徴する赤レンガ造りの建築遺産であり、町の歴史を語る上で欠かせない地域資源である。本企画展では、旧役場庁舎の歩みや建築的特徴を紹介するとともに、建材として用いられた赤レンガに着目し、煉瓦産業の歴史とも関連づけて展示を構成する予定である。

町内外の来館者に天塩町の歴史的価値と魅力を発信し、地域資源としての重要性を再認識してもらうことを目指している。

(2) 天塩小学校4年生対象「天塩ふるさとプロジェクト」

資料館では、小学校との連携をより深めることを目指している。現在、天塩小学校4年生が授業の一環として資料館見学を行っている点に着目し、この学習機会をさらに充実させる取り組みとして「天塩ふるさとプロジェクト」の実施を検討している。

本事業では、資料館見学に事前・事後学習を組み込む学習構造を導入し、ワークシートを活用することで、児童が展示内容を主体的に理解できるようにする。また、郷土学習の時間を設け、天塩町の歴史・文化・暮らしについて幅広く学べる内容とすることで、地域への関心と理解を深めることを目的としている。

2月には、天塩へ本事業の提案を行い、新年度に改めて正式な提案と調整を行う予定である。

1-2 調査・研究

(1) 公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会 青い目の人形について

公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会が開催を予定している「青い目の人形 100 年平和サミット（仮称）」に向け、当館所蔵の人形に関するアンケートに協力した。調査の過程で判明した主な事項は以下のとおりである。

名称： カーラル

英語名： Carol（キャロル）または Caral（カーラル）

メーカー： EFFANBEE（エファンビー社）

人形自体の製品名： ROSEMARY（ローズマリー）

寄贈元： オハイオ州レイクウッド・ヘイズ小学校（Hays Elementary School）の可能性が高い

関連資料： 村田文江著『天塩物語』に当時のパスポートに関する記述があるが、現時点で現物は未確認

メーカー等の情報は人形の首筋の刻印から判明した。カーラル自体の保存状態は良好であるが、肌の塗装剥離の恐れがあるため、確認作業は慎重に実施した。今回の調査により、製造元や本来の製品名などの基礎情報を把握することができ、寄贈元や来歴を再検討する上で重要な手がかりを得ることができた。

(2) 元樺太島民へのアンケート調査 はまなす学園大学

町内に残る歴史資料の整理および専門分野である樺太史調査の一環として、「はまなす学園大学」の受講生を対象にアンケート調査を実施した。本調査は、町内の樺太出身者数を概ね把握するとともに、今後予定している個別聞き取り調査の基礎情報を得ることを主目的としている。

調査は3月5日、調査票に基づき項目ごとの説明を行いながら回答を得た。その結果、2名の樺太出身者が在住していることを確認できた。

今後は、該当者へ改めて連絡を取り、当時の生活実態や引揚体験についての聞き取り調査を進める予定である。これらの成果は、資料館の展示資料の充実や地域史研究の貴重なリソースとして活用していく。

<p>元樺太島民・北方領土出身者に関する聞き取りアンケート ご協力をお願い</p> <p>天塩町地域おこし協力隊 前川 康生</p> <p>目的</p> <p>天塩町に残る歴史資料を整理するため、元樺太島民・北方領土出身の方や、そのご家族に関する記憶を集めています。差し支えない範囲でご協力をお願いいたします。QRコードからでもご回答いただけます。紙は後ほど回収いたします。</p> <p>お名前： _____</p> <p>ご年齢： _____ 歳</p> <p>質問</p> <p>(1) 親戚を含めたご家族の中に樺太・北方領土出身の方はいらっしゃいますか。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない</p> <p>「はい」と答えた方へ どちらの出身ですか？ <input type="checkbox"/> 樺太 <input type="checkbox"/> 北方領土</p> <p>(2) 樺太・北方領土出身のご両親・親族をお持ちの町民・元町民をご存じですか。 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない</p> <p>「はい」と答えた方へ その方はどちらの出身ですか？ <input type="checkbox"/> 樺太 <input type="checkbox"/> 北方領土</p> <p style="text-align: center;">裏面に続きます</p>	<p>(3) (1) または (2) で「はい」とお答えいただいた方へ（任意）</p> <p>差し支えない範囲で、思い出せることをご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その方のお名前 ・その方との関係（父母、親戚、近所の方など） ・ご自身またはその方から聞いた、覚えているエピソードや情報 ・その方と現在も連絡を取ることはできますか。 ・可能であれば、その方のご連絡先をご記入ください。ご本人の許可を取ってから連絡先をお知らせいただく場合は、次の(4)に あなたご自身の連絡先をご記入ください <p style="text-align: center;">※書きたくない場合は空欄で大丈夫です</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <p>(4) (3)で書ききれなかったことなど、今後追加でお話を伺ってもよろしいですか。 <input type="checkbox"/> はい（ご連絡先： _____ ） <input type="checkbox"/> いいえ</p> <p style="text-align: center;">アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。</p>
---	---

使用した調査票 ↑

1 - 3 研修

(1) 文化財防災センター「令和7年度 被災文化財対応基礎研修（オンライン）」

本研修は、災害発生時に文化財が被災した際の対応体制や手順について、過去の事例や防災体制の整備状況を踏まえて学ぶものである。

研修内容は、被災文化財の救援活動（救出、緊急保管、応急処置、一時保管）に関する基礎知識に加え、水損した紙資料や民俗資料の応急処置方法、救援活動で課題となる微生物被害への対策、作業者の安全確保に関する知識の習得を目的としていた。

受講形式は、講義動画によるオンデマンド方式で実施された。全10講義（約15分の動画計16本）を視聴した後、内容に基づくレポートを提出し、修了した。3月30日には修了証書を受領（郵送）している。

本研修を通じ、災害発生時の初動対応や救援活動の流れを体系的に理解することができた。特に、救出から一時保管に至る一連の作業ポイントや、過去の事例から得られた課題を把握できたことは、今後の文化財保全において極めて重要な知見となった。

また、水損資料の処置や微生物対策、安全管理に関する基礎知識を得たことで、有事の際の判断や対応の幅が広がった。これらの知識は天塩町における文化財保護体制の強化に直結するものであり、今後の防災計画や館内の備えに確実に反映させていく考えである。

1 - 4 出張

(1) 武四郎祭り (2/21~23)

2月22日、三重県松阪市の松浦武四郎記念館で開催された第31回「武四郎まつり」に参加した。本イベントは、北海道の名付け親である松浦武四郎の功績を顕彰するもので、1996年から毎年開催されている。武四郎は天塩町の歴史と深い関わりを持つ人物であり、今回の出張には以下の目的があった。

- ・ 松浦武四郎記念館の山本命館長と面会し、資料館の展示充実に向けて助言を得ること。
- ・ 小説『がいなもん 松浦武四郎一代』著者の河路和香氏と面会し、武四郎の人物像や史料解釈に関する知見を伺うこと。
- ・ 天塩町物産コーナーの出展補助とPR活動を行い、来場者に町の魅力を紹介すること。

現地での活動や展示内容を把握することは、当町の資料整理や常設展の更新に役立つものである。また、記念館関係者との情報交換を通じ、今後の事業連携の可能性についても確認できた。

出張中は観光協会の計良氏と行動を共にし、当日は黒松内町との合同ブースの設営を行った。今回の出張を通じ、両市町の歴史的な繋がりを再確認でき、ゆかりのある地域との新たな連携や交流の可能性を感じる機会となった。



出展ブース (左：天塩町 右：黒松内町)



松浦武四郎記念館 (外)



会場の様子

札幌大学 ウレシパクラブによるアイヌ舞踊



松浦武四郎記念館の館内



特別に公開された「武四郎^{ねほん}涅槃図

(2) 留萌管内地域おこし協力隊ネットワーク総会 留萌振興局 (3/13)

3月13日、留萌振興局にて開催された「令和7年度留萌管内地域おこし協力隊ネットワーク総会」に対面で出席した。

総会では、次年度の新役員体制および規約改正案の説明が行われ、併せて今年度の活動報告がなされた。具体的には、10月に留萌振興局と合同で実施された映像制作ワークショップや、9月に天塩町で開催された研修交流会の成果について共有された。

新年度の事業計画においては、起業に関する研修の実施や、天売・焼尻島で活動する協力隊の現地見学案が示されたほか、出席した隊員からも積極的な研修の追加提案が行われた。

天塩町では次年度に新たな地域おこし協力隊の着任が予定されている。新隊員が円滑に活動を開始できるよう、本ネットワークへの加入を促す説明の場を設けるなど、広域的な連携体制の構築を支援していく考えである。



1-5 地学協働コーディネーター

(1) 研修・発表会への参加

地学協働コーディネーターとしての知見を広げ、地域と高校の協働をより効果的に進めるため、以下の研修・発表会に参加した。各研修では、他地域の事例や協働の手法、探究学習の支援方法などを学び、天塩高校での取り組みに活かせる多くの示唆を得ることができた。

- ・令和7年度 第2回指定校交流会（オンライン・1/15）
- ・MPLフォーラム04（オンライン・1/17）
- ・高校コーディネーター研修（オンライン・1/22）
- ・高校と地域の協働事例発表会（オンライン・1/23）
- ・総合的な探究の時間 校内研修（天塩高校・2/16）

(2) 他の取り組み

・麗澤大学と天塩高校1年生の交流授業の見学(2/24)

麗澤大学の学生と天塩高校1年生による交流授業を見学した。麗澤大学と天塩高校は高大連携に関する協定を締結しており、こうした教育機関との協働は、高校生の視野拡大に寄与するものと考えている。今後もこうした機会を注視していきたい。

・天塩高校「総合的な探究の時間」基本方針等についての会議(3/10)

令和8年度の「総合的な探究の時間」の基本方針や年間計画について協議する会議に出席した。次年度は、方針に基づき、より積極的に活動へ関わり、高校生の学びを支える役割を果たしていく考えである。

1-6 その他

(1) 商工会青年部主催ビアガーデンへの北都プロレス出演依頼

地域おこし協力隊として着任当初より、プロレス興行を通じた地域活性化の可能性を検討してきた。教育委員会および企画商工課への相談過程で、過去に商工会青年部主催のビアガーデンにおいてプロレス興行の実績があるとの教示を受け、同イベントでの開催に向けた調整を開始した。

商工会に対して企画内容のプレゼンテーションを行い、協議の結果、開催の承諾を得ることができた。その後、北都プロレスとの直接交渉を進め、正式に出演の合意に至った。これにより、町内イベントにおける新たな集客および賑わい創出の機会が確保される見通しとなった。また、北都プロレス2025年最終興行である中川町大会に招待を受け、実際の試合を観戦することで、興行の具体像を再確認した。

本取組は前年夏頃より準備を進めてきたものであり、新年度の開催に向けて本格的な情報発信を開始する。企画の具体化にあたっては、役場関係部署、商工会青年部、および北都プロレスの多大なる協力を得た。今後はイベントの詳細な広報を順次進め、町民に親しまれる興行となるよう、引き続き準備に注力する。

[北都プロレス 北海道 | 北の大地の熱き戦い ープロレスで北海道に笑顔と元気をー](#)

(2) 令和8年度宗谷管内巡回展「(仮)宗谷と天塩ヒグマ」への参加

昨年12月、宗谷管内学芸職員連絡協議会より、令和8年度実施の巡回展「(仮)宗谷と天塩ヒグマ」への参加依頼を受け、天塩町として正式に参加することが決定した。

昨年度は、同協議会の総会への参加や、オホーツクミュージアムえさしでの学芸員研修など、管外地域でありながら多くの交流と支援を受けてきた。こうした繋がりが今回の巡回展参加にも結びついており、今後の活動においても重要な連携の基盤となると考えている。

本事業において天塩町は、展示に使用するパネル原稿の作成を担当している。過去の新聞記事や文献の調査を進め、現在は3枚分のパネルデータを提出済みである。

また、天塩町で巡回展を開催する際には、町独自のパネルも追加で展示することを検討している。

以上が1月から3月にかけての活動報告である。

この1年間は地域の歴史や現状を学ぶことに重点を置いてきたが、2年目はこれまでの準備を形にしていきたい。

2026年度も引き続き、天塩川歴史資料館と地域おこし協力隊の活動に力を注いでいく。今後ともよろしく願いいたします。